

愛称 **ポラリス**

ピクテ・ゴールドデン・リスクプレミアム・ファンド

追加型投信/内外/資産複合

ピクテ・ファンド・ウォッチ 2023年11月27日

2023年10月の運用状況と今後の見通し

●設定・運用は

PICTET JAPAN

ピクテ・ジャパン株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第380号
加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、日本証券業協会

ご購入の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」等をご覧ください。

ポラリスの運用状況と今後の方針

運用状況

2023年10月31日の基準価額は14,199円となり、前月末比で178円上昇(+1.3%)しました。

基準価額変動+178円の要因別の内訳

株式	-138円
債券	-39円
金	+386円
為替	-16円
分配金	--円
その他	-14円

参考指数の月間騰落率
(1営業日前ベース、円ベース)

世界株式	-3.0%
世界国債(ヘッジあり)	-0.7%
金	+6.9%

主な投資行動の振り返り

2023年10月末の組入比率は、前月末比で、債券、株式を引き上げた一方、キャッシュ等、金を引き下げました。

2023年10月末の組入比率

株式	37.7%	(+0.2%pt)
債券	15.9%	(+1.2%pt)
金	42.6%	(-0.3%pt)
キャッシュ等	3.9%	(-1.1%pt)

※括弧内は前月末比

今後の方針

物価の高止まりや中東情勢の緊迫化など、市場環境には不透明感が強まっています。しかし米10年国債利回りは一時5%台にのせ、株式のセンチメントも売られ過ぎの領域まで悪化するなど、短期的に投資妙味が高まっているとも考えられます。このため株式の比率を現状程度に留めつつ、中東情勢の一段の悪化というリスクシナリオを考慮して、優良株・ディフェンシブ株主体の銘柄選択を継続します。債券については、引き続き主要中央銀行の金融政策を注視しながら、インカム収益が見込まれる世界社債および新興国債券への投資を維持していきます。為替については、日本銀行の政策修正に伴う円反発の可能性を警戒し、為替ヘッジの比率を増やすことを検討します。金については、昨今の地政学的リスクに加えて、株式や債券などの伝統的資産クラスとの相関が低く、インフレに強い性質を有するとみられていることから、分散投資において重要かつ戦略的資産の位置づけに変わりありません。一方で、米連邦準備制度理事会(FRB)が市場が予想する以上に長く金融引き締め姿勢を継続した場合、金利上昇および米ドル高が金価格下落につながる可能性もあるため、引き続き金を取り巻く環境を冷静にみていくことが重要といえます。ポラリスでは引き続き、各資産の相対的なリスクプレミアムの魅力度を精査しながらポートフォリオのアロケーションを行います。

※当資料中のデータ・分析等は過去の実績や将来の予測に基づくものであり、運用成果や市場環境等を示唆・保証するものではありません。また、将来の市場環境の変動等により、上記の内容が変更される場合があります。※基準価額は1万口当たりで表示しています。基準価額は信託報酬等控除後。換金時の費用・税金等は考慮していません。世界株式、世界国債(ヘッジあり)、金の出所については次ページ参照

基準価額の推移(1)

- 2023年10月31日のポラリスの基準価額は14,199円となり、前月末比で178円上昇(+1.3%)しました。
- 2023年10月の月間騰落率は世界株式が-3.0%、世界国債(ヘッジあり)が-0.7%、金が+6.9%となりました(ともに1営業日前ベース、円ベース)。

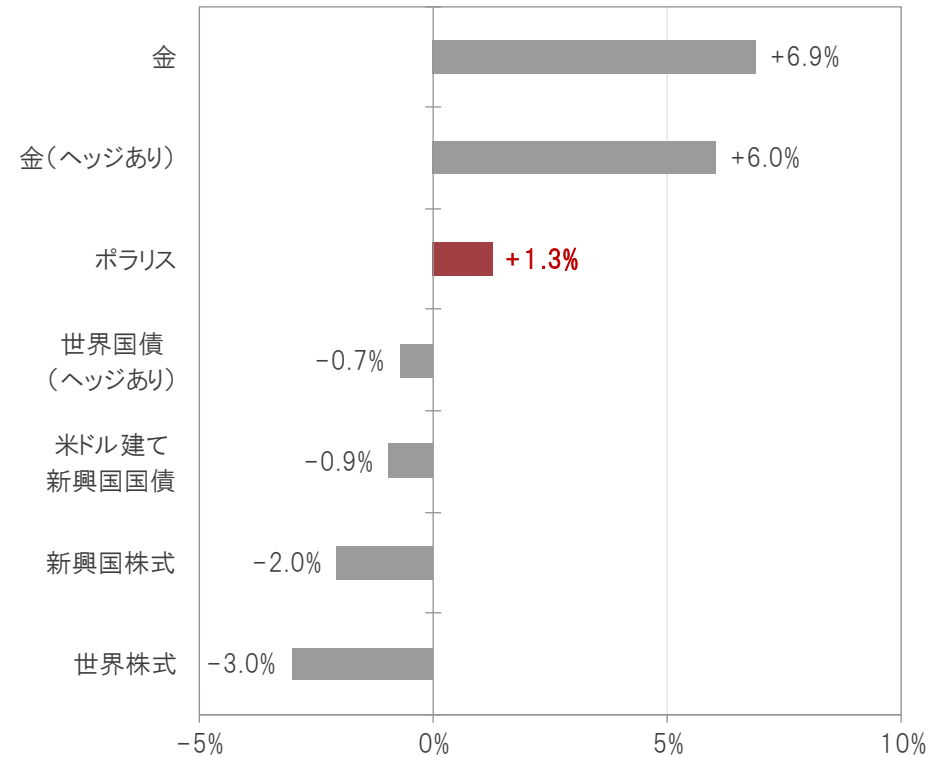
基準価額の推移

日次、期間:設定日(2020年6月26日)~2023年10月31日



月間騰落率比較

月次、円ベース、期間:2023年9月末~2023年10月末



※当資料中のデータ・分析等は過去の実績や将来の予測に基づくものであり、運用成果や市場環境等を示唆・保証するものではありません。 ※基準価額は1万円当たりで表示しています。 ※基準価額は信託報酬等控除後、換金時の費用・税金等は考慮していません。 ※世界株式:MSCI全世界株価指数(配当込み)(円換算)、新興国株式:MSCI新興国株価指数(配当込み)(円換算)、世界国債(ヘッジあり):FTSE世界国債指数(円ヘッジ)、米ドル建て新興国国債:JPモルガンEMBIグローバル・ディバースファイド指数(円換算)、金:ロンドン市場金価格(円換算)、金(ヘッジあり):ロンドン市場金価格(米ドルベース)からヘッジコスト(米ドル円1ヵ月フォワードレートから計算)を控除し算出 ※指数はすべてトータル・リターン・ベース(金は除く)

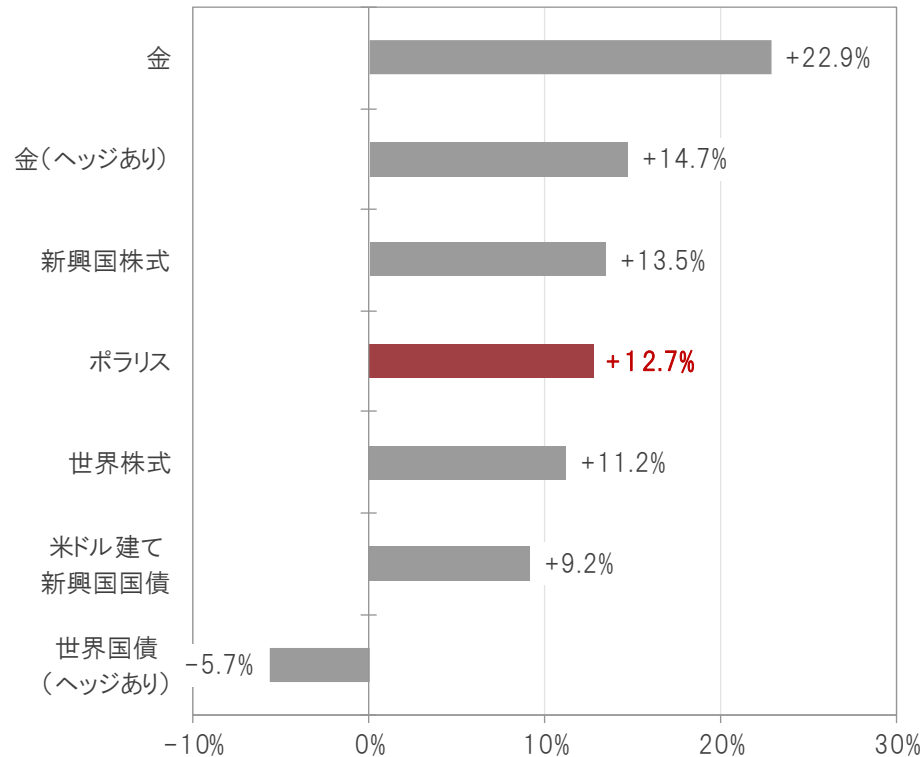
※投資対象ファンドによって基準価額に反映する日が1-2日異なるため、比較指数は1営業日前ベースとしています。 出所:ブルームバーグのデータを基にピクテ・ジャパン作成

基準価額の推移(2)

- ポラリスの基準価額は過去1年間(2022年10月末～2023年10月末)で12.7%上昇しました。
- ポラリスの設定来の年率のリスク(標準偏差)とリターンはそれぞれ9.7%、11.0%となっています。

過去1年間の騰落率比較

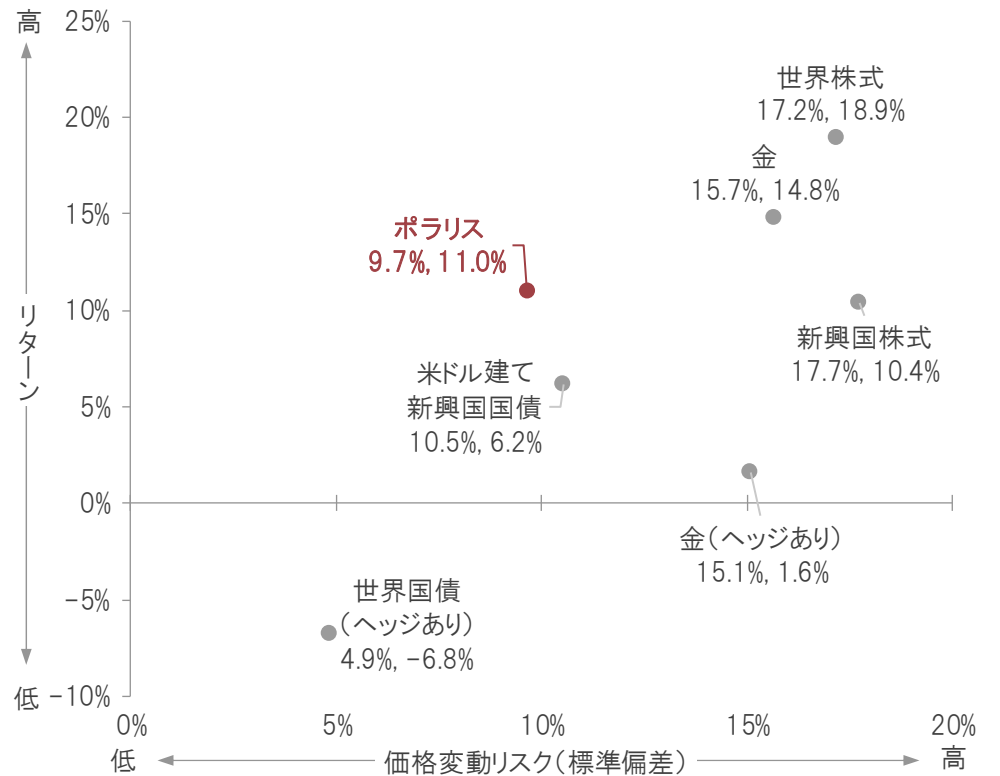
月次、円ベース、期間:2022年10月末～2023年10月末



ポラリスおよび主要な資産のリスク・リターン比較

日次、円ベース、年率、期間:設定日(2020年6月26日)～2023年10月31日

グラフ中の数字はリスク, リターン



※当資料中のデータ・分析等は過去の実績や将来の予測に基づくものであり、運用成果や市場環境等を示唆・保証するものではありません。 ※基準価額は信託報酬等控除後。換金時の費用・税金等は考慮していません。
 ※世界株式:MSCI全世界株価指数(配当込み)(円換算)、新興国株式:MSCI新興国株価指数(配当込み)(円換算)、世界国債(ヘッジあり):FTSE世界国債指数(円ヘッジ)、米ドル建て新興国債:JPモルガンEMBIグローバル・ディバースィファイド指数(円換算)、金:ロンドン市場金価格(円換算)、金(ヘッジあり):ロンドン市場金価格(米ドルベース)からヘッジコスト(米ドル円1ヵ月フォワードレートから計算)を控除し算出 ※指数はすべてトータル・リターン・ベース(金は除く) ※投資対象ファンドによって基準価額に反映する日が1-2日異なるため、比較指数は1営業日前ベースとしています。
 ※設定来は2020年6月26日～2023年10月31日。 出所:ブルームバーグのデータを基にピクテ・ジャパン作成

基準価額変動要因分析

- 基準価額の変動要因の内訳は、1)～3)市場要因(価格、金利、信用力等の変化による株式、債券、金の変動要因)、4)為替要因、5)分配金要因、および、6)その他です。

基準価額変動要因分析

期間: 設定日(2020年6月26日)～2023年10月末、単位:円

	2020年 年間	2021年 年間	2022年 年間	2023年 年初来	設定来
基準価額(期末)	11,002	12,217	12,702	14,199	14,199
変動額	+1,002	+1,215	+485	+1,497	+4,199
1) 株式	+854	+897	-530	-14	+1,208
2) 債券	+0	+0	-35	-99	-134
3) 金	+332	-229	+27	+400	+529
4) 為替	-122	+684	+1,173	+1,351	+3,086
5) 分配金	0	0	0	0	0
6) その他	-62	-138	-150	-140	-490

	2022年		2023年									
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
基準価額(期末)	12,763	12,702	13,074	12,815	13,059	13,214	13,580	14,087	14,060	14,298	14,021	14,199
変動額	+169	-61	+372	-259	+244	+155	+366	+507	-27	+238	-277	+178
1) 株式	+260	+25	+137	-112	+70	+92	-11	+150	+169	-142	-229	-138
2) 債券	+0	-35	+59	-94	+38	+2	-35	+27	+21	-22	-55	-39
3) 金	+384	+213	+291	-262	+308	+37	-103	-151	+156	-18	-244	+386
4) 為替	-463	-250	-101	+223	-158	+39	+529	+495	-359	+434	+265	-16
5) 分配金	--	--	--	--	--	--	--	--	--	0	--	--
6) その他	-12	-14	-15	-13	-14	-15	-14	-14	-14	-14	-14	-14

※当資料中のデータ・分析等は過去の実績や将来の予測に基づくものであり、運用成果や市場環境等を示唆・保証するものではありません。 ※基準価額およびその変動額は1万口当たりで表示しています。 ※組入ファンドの価格変動要因を基に委託会社で作成し参考情報として記載しているものです。組入ファンドの信託報酬等は株式、金、債券に含まれます。為替には、為替変動要因のほかヘッジコストやヘッジ比率の変動による要因等が含まれます。各項目(概算値)ごとに円未満は四捨五入しており、合計が一致しない場合があります。その他には信託報酬等を含みます。 ※上段表の各年間の「基準価額(期末)」は各年末の基準価額を表します。また、各年間の「変動額」は前年末の基準価額に対して各年末の基準価額がどの程度変動したかを表します。なお、「2020年」の変動額については設定日(2020年6月26日)の基準価額に対して2020年年末の基準価額がどの程度変動したかを表します。 ※設定来および2023年年初来は2023年10月31日まで。

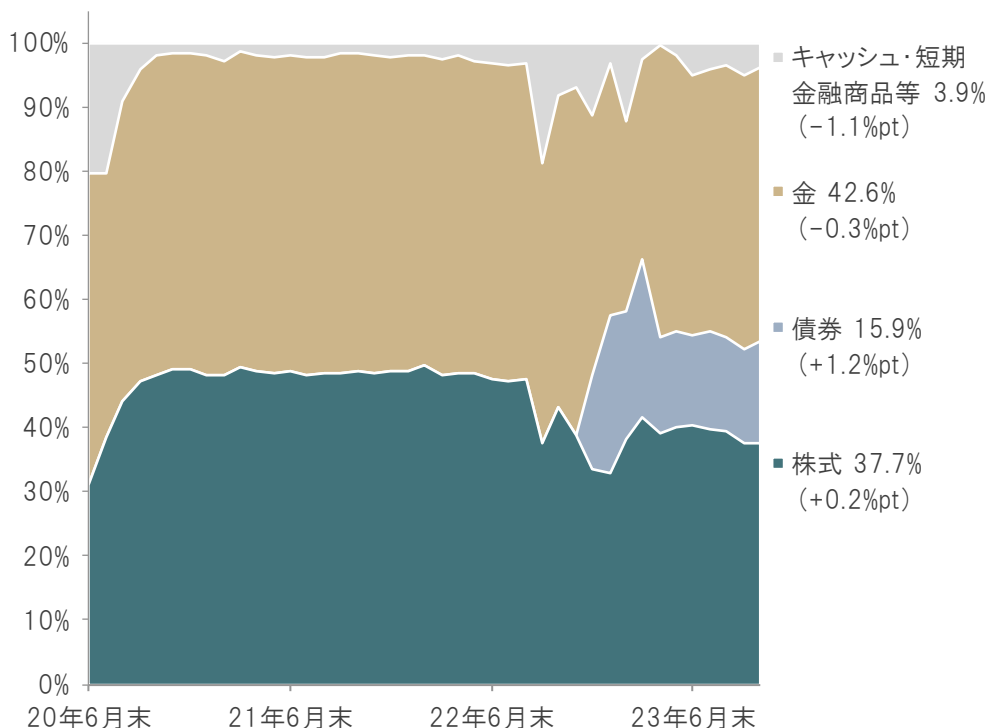
ポートフォリオの状況

- 2023年10月末の組入比率は、前月末に対して、債券、株式を引き上げた一方、キャッシュ等、金を引き下げました。

投資対象別構成比

月次、期間：2020年6月末～2023年10月末

右端数値は2023年10月末時点、括弧内は前月末比



指定投資信託証券の組入比率

月次、期間：2023年9月末～2023年10月末

投資信託名		当月末 組入比率	前月末 組入比率
株式	1 グローバル・ユーティリティーズ・エクイティ・ファンド	4.0%	3.9%
	2 新興国ハイインカム株式ファンド	12.4%	12.0%
	3 世界株式ファンド	22.3%	22.4%
債券	4 グローバル・サステナブル・クレジット	8.4%	7.9%
	5 グローバル・ボンド	--	--
	6 ハイインカム・ソブリン・ファンドⅡ	8.5%	--
金	7 フィジカル・ゴールド・ファンド(為替ヘッジあり)	--	--
	8 フィジカル・ゴールド・ファンド(為替ヘッジなし)	42.6%	42.9%
キャッシュ等	9 ショートタームMMF JPY	0.0%	0.0%

上場投資信託証券			
債券	10 iShares J.P. Morgan USD Emerging Markets Bond ETF	--	7.0%
	11 iShares iBoxx Investment Grade Corporate Bond ETF	--	--
	12 iShares Core Global Aggregate Bond UCITS ETF	--	--

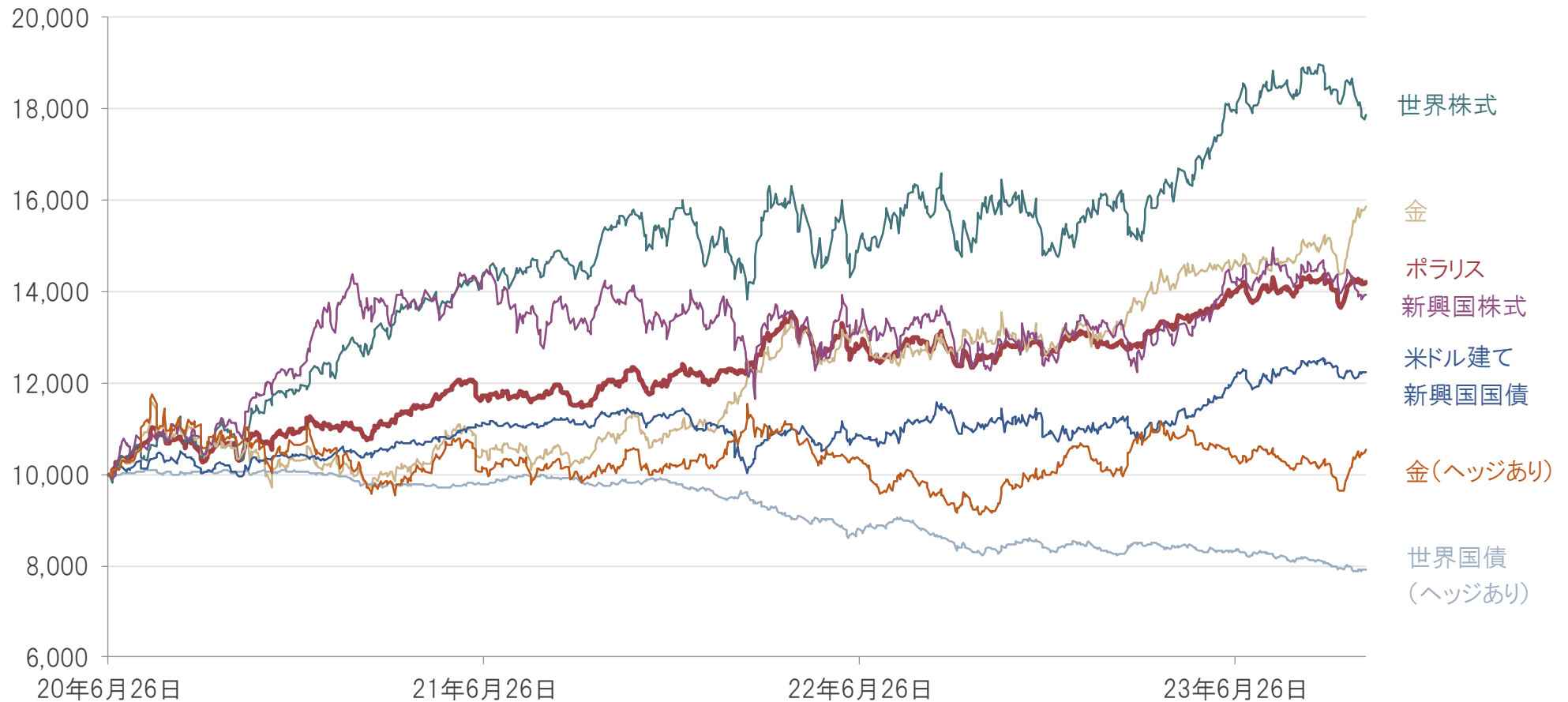
※当資料中のデータ・分析等は過去の実績や将来の予測に基づくものであり、運用成果や市場環境等を示唆・保証するものではありません。 ※[投資対象別構成比]株式・債券は、株式または債券を主な投資対象とする投資先ファンドの株式・債券への投資比率と、各投資先ファンドの組入比率から計算しています。金は、金を主な投資対象とする投資先ファンドの組入比率です。キャッシュ・短期金融商品等は、当ファンドにおけるコール・ローン等の比率の他、株式、債券を主な投資対象とする投資先ファンドの預金等が含まれています。※株式にはリートの構成比も含まれます。

※[指定投資信託証券の組入比率]今後変更となる場合があります。上記の中から投資する投資信託証券を選択するため、投資を行わないものもあります。※株式への投資と同様な効果を有する証券がある場合、株式に含めています。構成比は四捨五入して表示しているため、それを用いて計算すると誤差が生じる場合があります。

(ご参考)ポラリスと主要資産のパフォーマンス比較

設定来の基準価額と主要な資産のパフォーマンス

日次、円ベース、期間：設定日(2020年6月26日)～2023年10月31日、ポラリス以外は2020年6月26日＝10,000として指数化
(円)

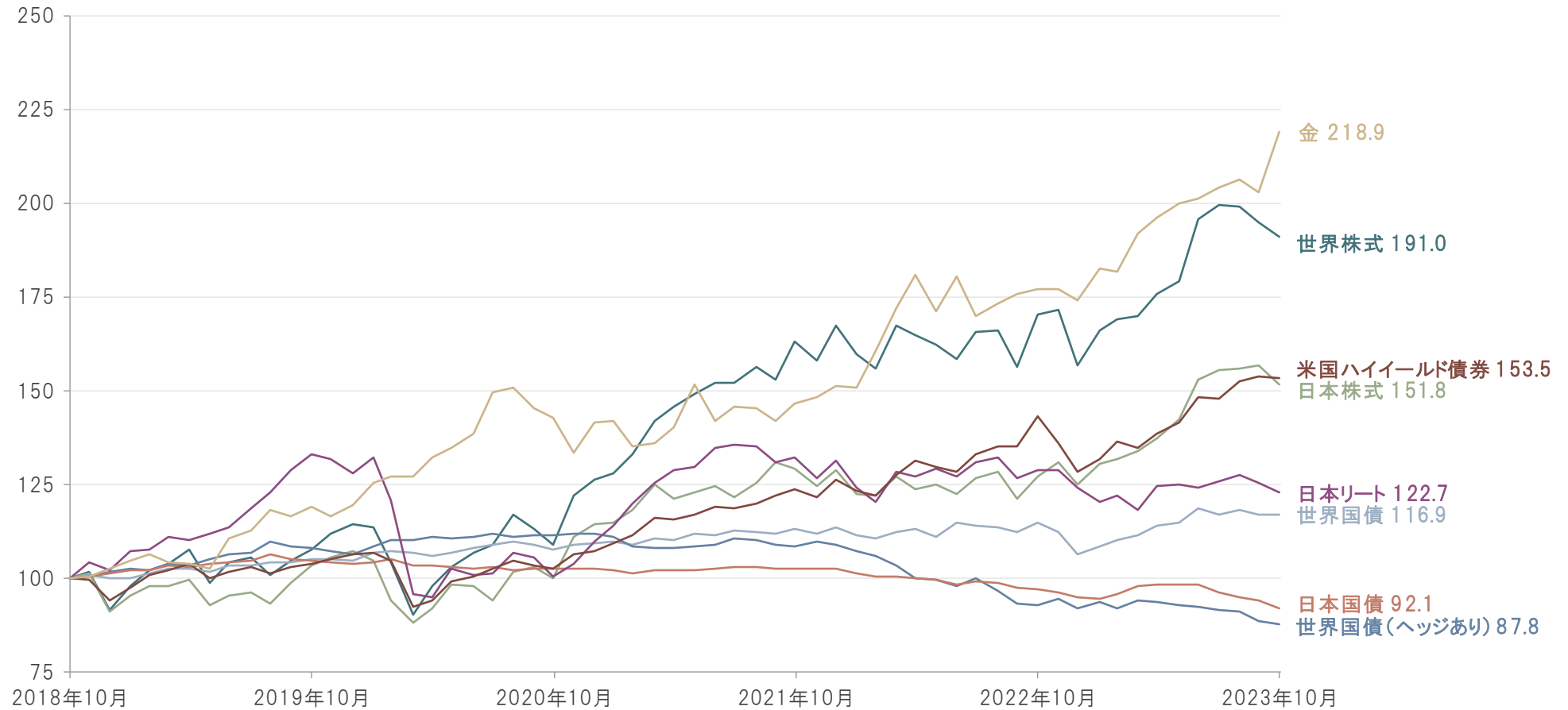


※ポラリスの基準価額は信託報酬等控除後。※基準価額は1万口当たりで表示しています。※世界株式：MSCI全世界株価指数(配当込み)(円換算)、新興国株式：MSCI新興国株価指数(配当込み)(円換算)、世界国債(ヘッジあり)：FTSE世界国債指数(円ヘッジ)、米ドル建て新興国国債：JPモルガンEMBIグローバル・ディバースィファイド指数(円換算)、金：ロンドン市場金価格(円換算)、金(ヘッジあり)：ロンドン市場金価格(米ドルベース)からヘッジコスト(米ドル円1か月フォワードレートから計算)を控除し算出
※投資対象ファンドによって基準価額に反映する日が1-2日異なるため、比較指数は1営業日前ベースとしています。 出所：ブルームバーグのデータを基にピクテ・ジャパン作成
※データは過去の実績であり、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

(ご参考) 主要指数推移

過去5年間の主要な資産のパフォーマンス

月次、円ベース、期間：2018年10月末～2023年10月末、2018年10月末=100として指数化
右端数値は2023年10月末時点

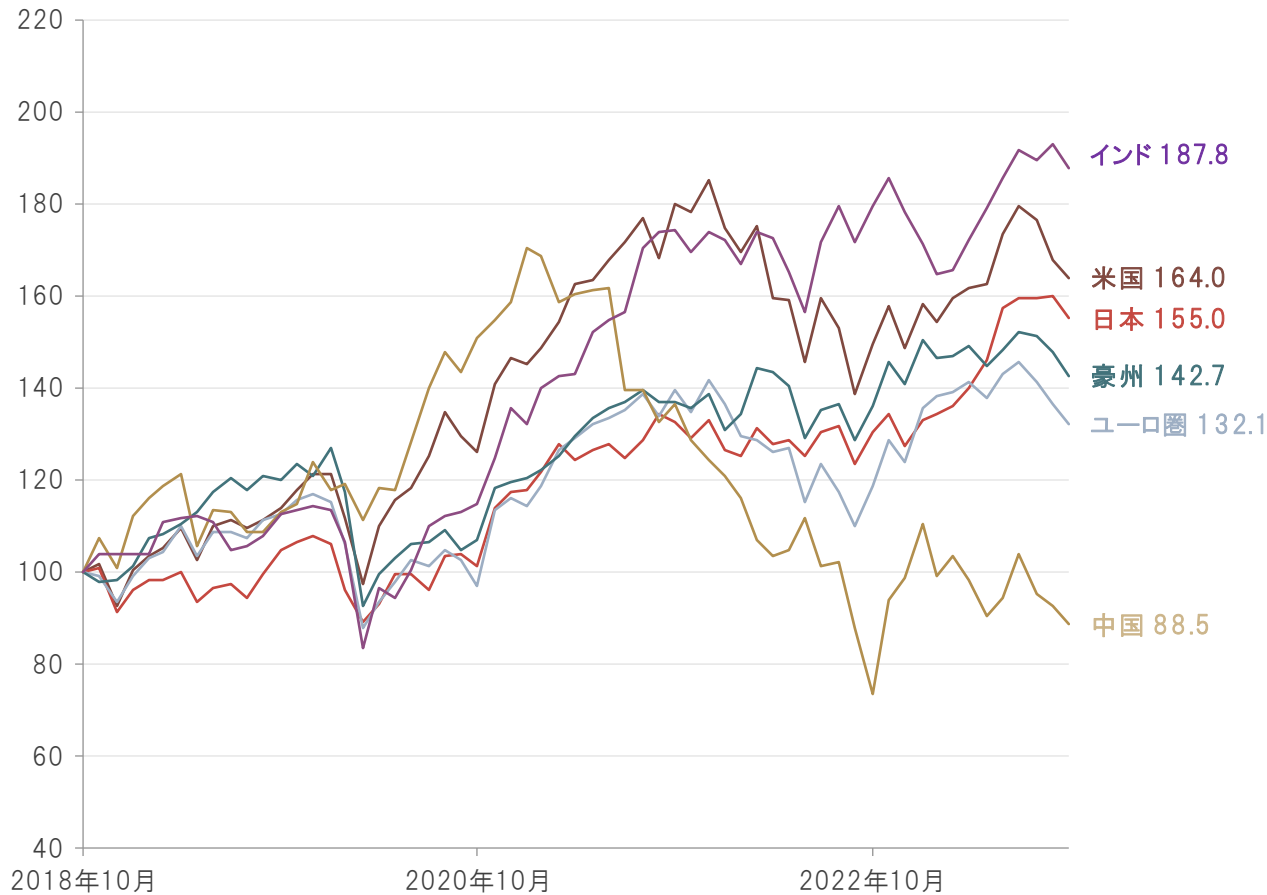


※当資料中のデータ・分析等は過去の実績や将来の予測に基づくものであり、運用成果や市場環境等を示唆・保証するものではありません。 ※日本国債:FTSE日本国債指数、世界国債(ヘッジあり):FTSE世界国債指数(円ヘッジ)、世界国債:FTSE世界国債指数(円換算)、米国ハイイールド債券:ICE BofA米国ハイイールド債券指数(円換算)、世界株式:MSCI全世界株価指数(円換算)、日本株式:TOPIX、日本リート:東証REIT指数、金:ロンドン市場金価格(円換算) ※指数はすべてトータル・リターン・ベース(金は除く) 出所:ブルームバーグのデータを基にピクテ・ジャパン作成

(ご参考)主要株価指数の推移

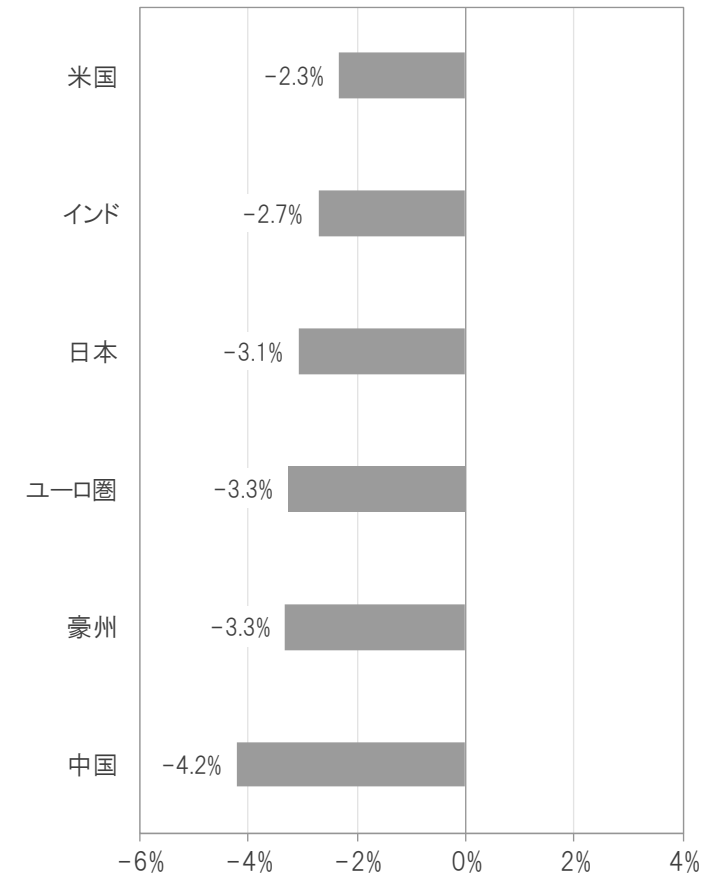
過去5年間の主要な国と地域の株価指数推移

月次、現地通貨ベース、期間：2018年10月末～2023年10月末、2018年10月末=100として指数化
右端数値は2023年10月末時点



月間騰落率比較

現地通貨ベース、期間：2023年9月末～2023年10月末



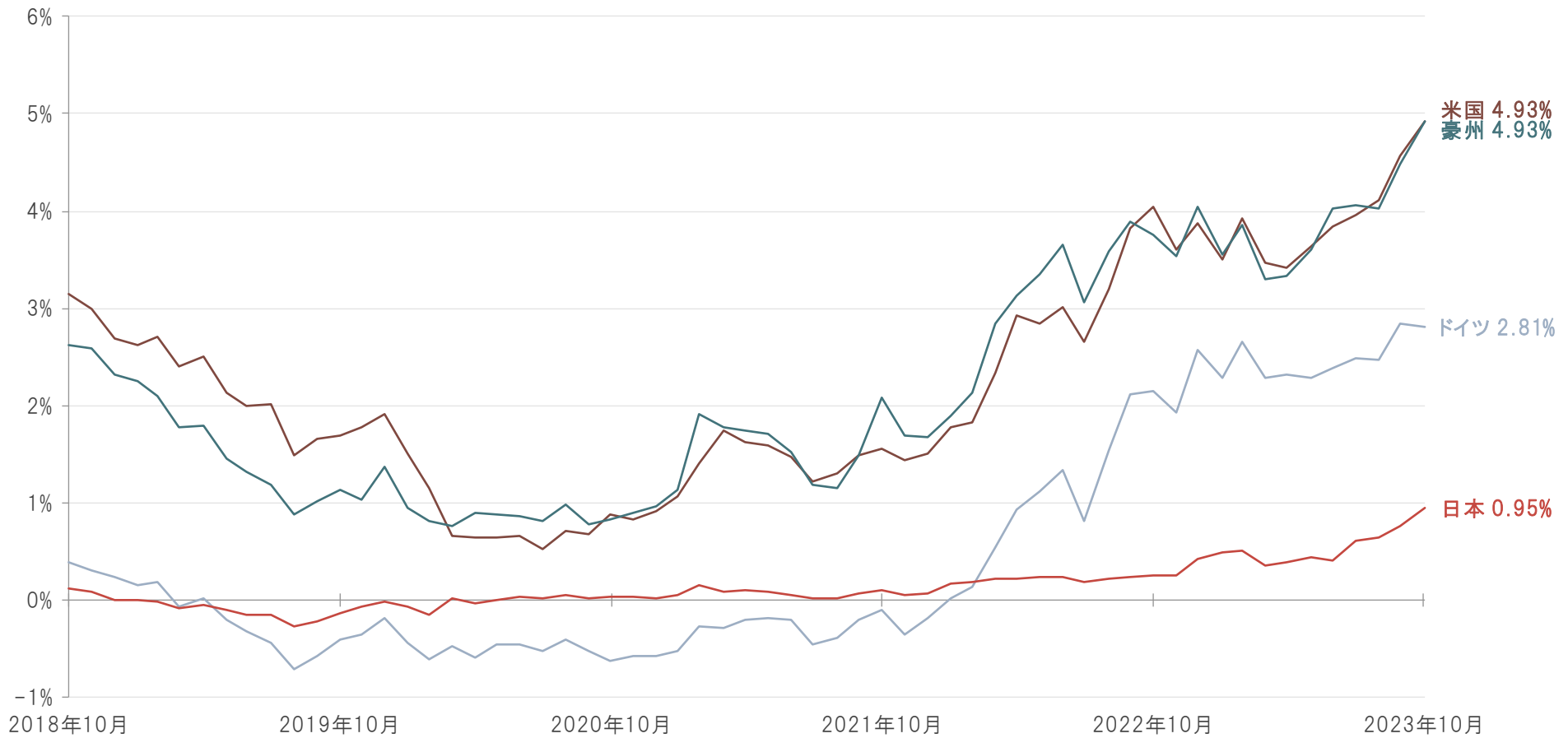
※米国:MSCI米国株価指数、日本:MSCI日本株価指数、ユーロ圏:MSCIユーロ圏株価指数、豪州:MSCIオーストラリア株価指数、インド:MSCIインド株価指数、中国:MSCI中国株価指数(すべて配当込み) 出所:ブルームバーグのデータを基にピクテ・ジャパン作成

(ご参考) 主要国債利回りの推移

過去5年間の主要な10年国債利回り推移

月次、期間: 2018年10月末～2023年10月末

右端数値は2023年10月末時点

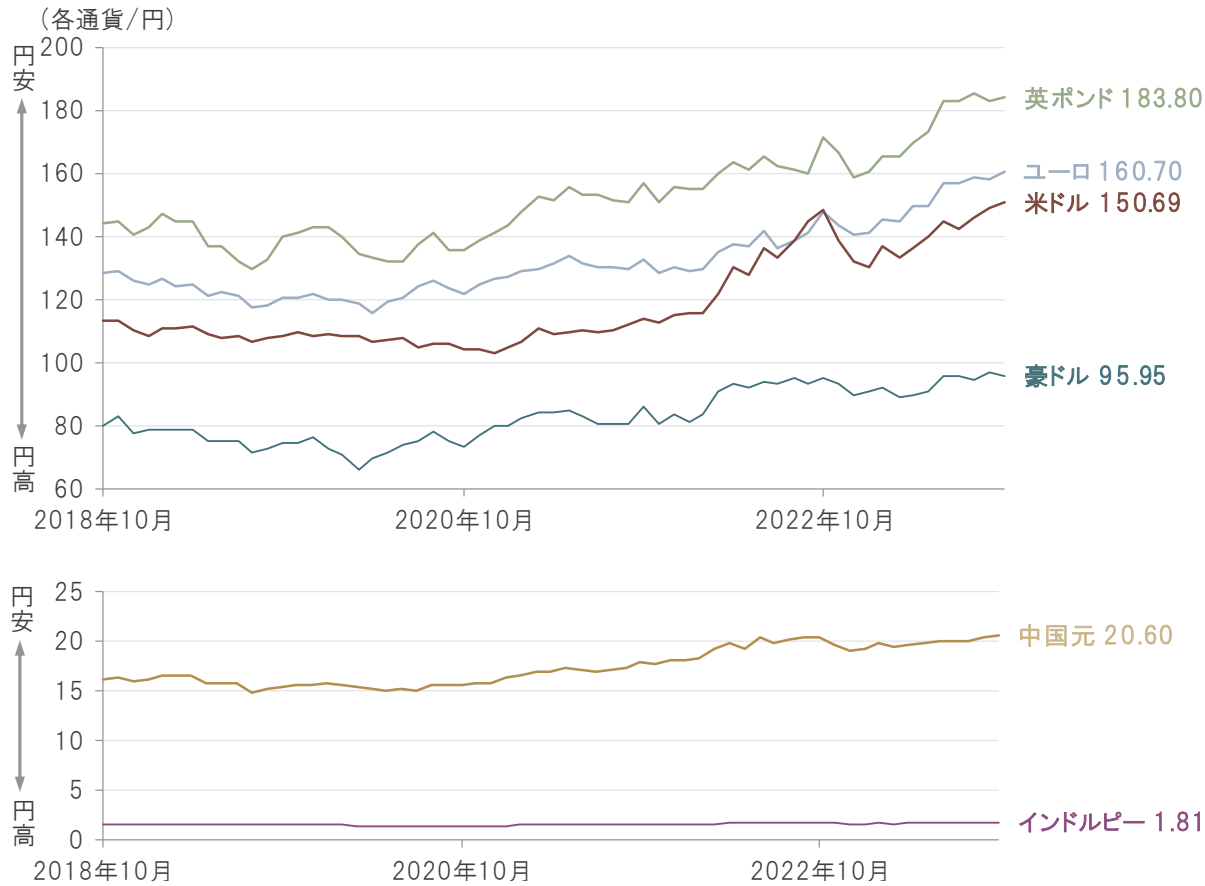


出所: ブルームバーグのデータを基にピクテ・ジャパン作成

(ご参考) 主要通貨の推移

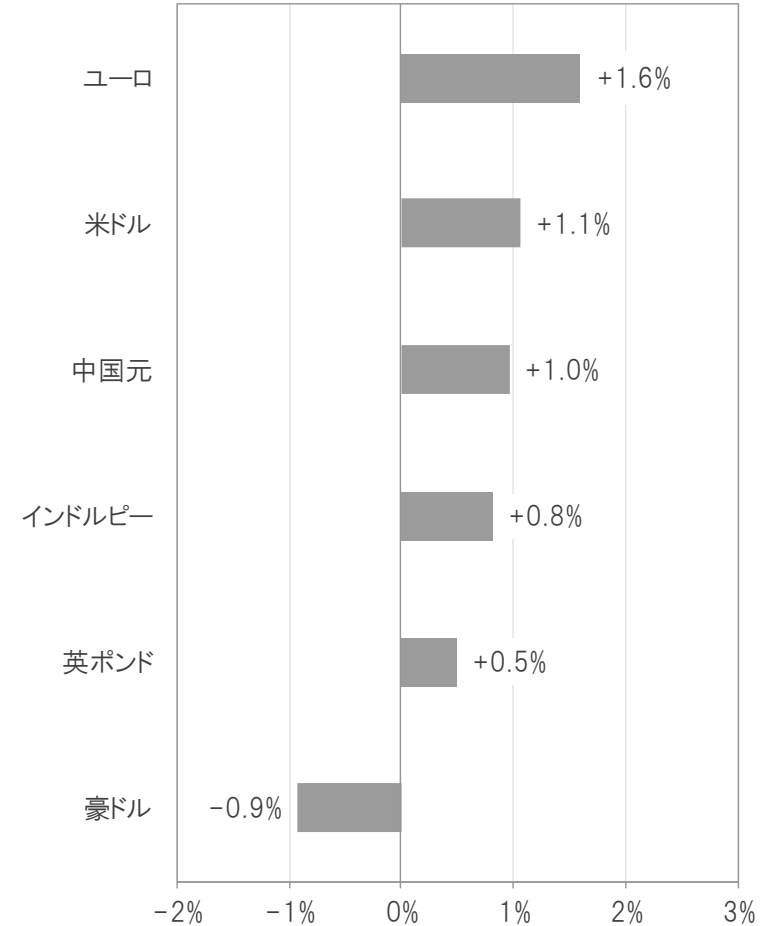
過去5年間の主要な国と地域の為替推移

月次、期間：2018年10月末～2023年10月末
右端数値は2023年10月末時点



月間騰落率比較

対円、期間：2023年9月末～2023年10月末



出所：ブルームバーグのデータを基にピクテ・ジャパン作成

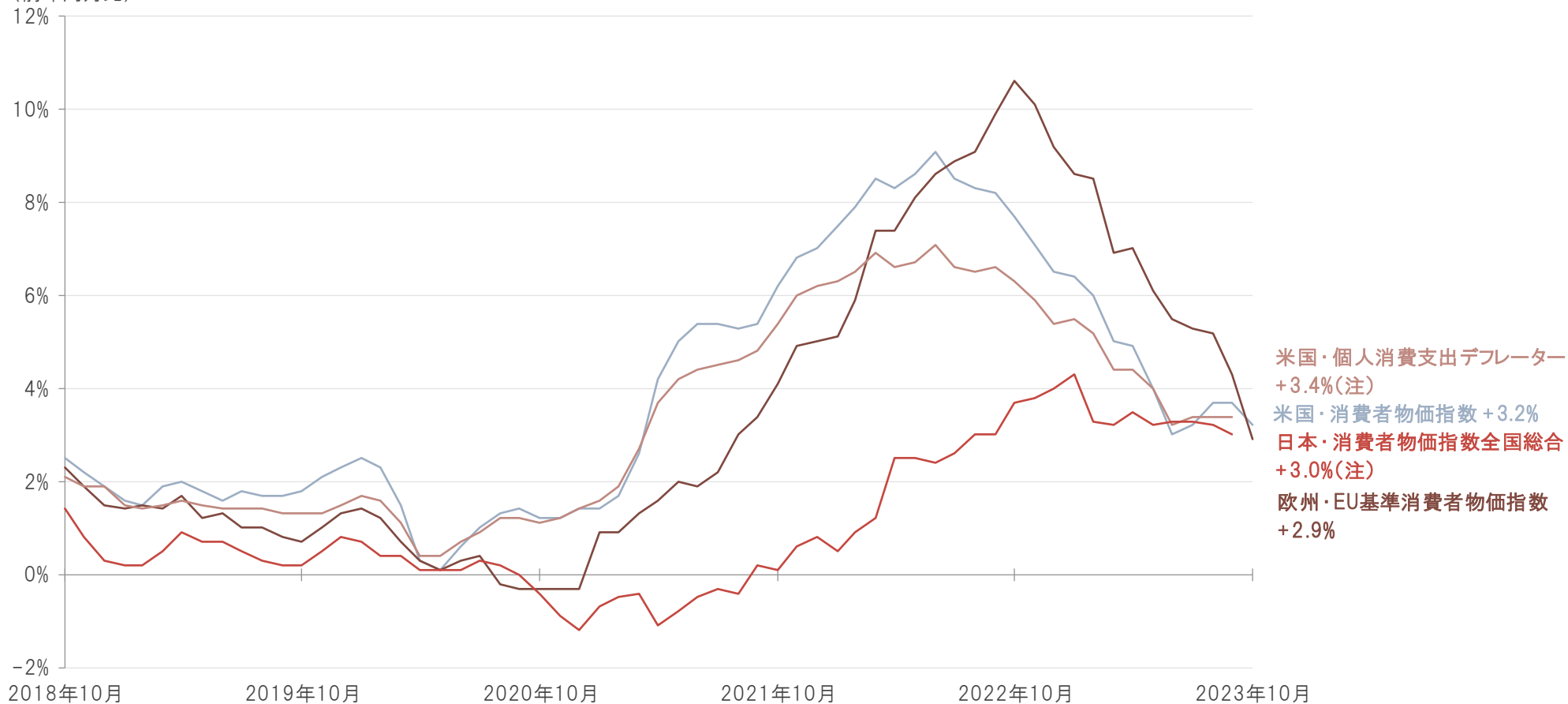
(ご参考) 主要物価関連指標の推移

過去5年間の主要な物価関連指標の推移

月次、期間: 2018年10月～2023年10月

右端数値は2023年10月時点、(注)のデータは2023年9月時点

(前年同月比)



出所:ブルームバーグのデータを基にピクテ・ジャパン作成

ファンドの特色

1

主に世界の様々な資産クラスに投資します

- 投資信託証券への投資を通じて、主に日本を含む世界の株式、金、債券、リート等への投資を行います。
- 投資対象として間接的に保有する外貨建資産については、為替ヘッジが必要と判断した場合は為替ヘッジを行うことがあります。また、為替ヘッジを行う投資信託証券に投資することがあります。

2

世界の市場環境に応じて、魅力的なリスクプレミアムが期待できる資産を選定し、配分比率の決定を行います

- 投資信託証券への投資にあたっては、世界の市場環境に応じて魅力的なリスクプレミアムが期待できる資産を選定し、配分比率の決定を行います。
- 基本資産配分の見直しは原則として月次で行います。

3

年1回決算を行います

- 毎年8月15日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、原則として収益分配方針に基づき分配を行います。

収益分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金を支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

愛称「ポラリス」の由来

ポラリスは、フランス語で「北極星」を意味します。投資先を選ぶ際の目安となってきた「リスクプレミアム」は、大海原を航海する船乗りたちの拠り所となる北極星に似た存在ともいえ、ファンドの戦略の根幹をなすものであることから「ポラリス」と名付けられました。

※上記の資産クラスが組入れられない場合や上記以外の資産クラスが組入れられる場合があります。※投資にあたっては、主にピクテ・グループ(委託会社を含みます。)が設定・運用する投資信託証券(投資対象として間接的に保有する外貨建資産について為替ヘッジを行うものを含みます。)への投資を通じて行います。各投資先ファンドにつきましては、投資信託説明書(交付目論見書)をご参照ください。※将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。※資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。将来の市場環境の変動等により、当該運用方針が変更される場合があります。

投資リスク

基準価額の変動要因

- ファンドの基準価額は、実質的に組入れている有価証券等の価格変動等(外国証券には為替変動リスクもあります。)により変動し、下落する場合があります。
- したがって、投資者の皆様が投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様へ帰属します。また、投資信託は預貯金と異なります。

価格変動リスク、信用リスク

- ファンドは、実質的に株式を投資対象としますので、ファンドの基準価額は、実質的に組入れている株式の価格変動の影響を受けます。株式の価格は、政治経済情勢、発行企業の業績・信用状況、市場の需給等を反映して変動し、短期的または長期的に大きく下落することがあります。
- ファンドは、実質的に金に投資しますので、ファンドの基準価額は、実質的に組入れている金の価格変動の影響を受けます。
- ファンドは、実質的に公社債を投資対象としますので、ファンドの基準価額は、実質的に組入れている公社債の価格変動の影響を受けます。一般的に金利が低下した場合には、公社債の価格は上昇する傾向がありますが、金利が上昇した場合には、公社債の価格は下落する傾向があります。
- ファンドは、実質的にデリバティブ取引を行うことがありますので、この場合ファンドの基準価額は当該デリバティブ取引の価格変動の影響を受けます。
- ファンドは、実質的にリートを投資対象としますので、ファンドの基準価額は、実質的に組入れているリートの価格変動の影響を受けます。
- 有価証券の発行体の財務状況等の悪化により利息や償還金をあらかじめ定められた条件で支払うことができなくなる(債務不履行)場合、または債務不履行に陥ると予想される場合には当該有価証券の価格が下落することがあります。

為替に関するリスク・留意点

- 実質組入外貨建資産について、為替ヘッジを行わない場合には、係る外貨建資産は為替変動の影響を受け、円高局面は基準価額の下落要因となります。
- また、部分的に為替ヘッジを行い為替変動リスクの低減を図りますが、為替変動リスクを完全に排除できるものではなく、為替変動の影響を受ける場合があります。また、円金利がヘッジ対象通貨の金利より低い場合、当該通貨と円との金利差相当分のヘッジコストがかかることにご留意ください。

カントリーリスク

- ファンドが実質的な投資対象地域の一つとする新興国は、一般に政治・経済・社会情勢の変動が先進諸国と比較して大きくなる場合があり、政治不安、経済不況、社会不安が証券市場や為替市場に大きな影響を与えることがあります。その結果、ファンドの基準価額が下落する場合があります。
- 実質的な投資対象国・地域において、政治・経済情勢の変化により証券市場や為替市場等に混乱が生じた場合、またはそれらの取引に対して新たな規制が設けられた場合には、基準価額が予想外に下落したり、運用方針に沿った運用が困難となる場合があります。この他、当該投資対象国・地域における証券市場を取り巻く制度やインフラストラクチャーに係るリスクおよび企業会計・情報開示等に係るリスク等があります。

流動性リスク

- 市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等には、機動的に有価証券等を売買できない場合があります。このような場合には、当該有価証券等の価格の下落により、ファンドの基準価額が影響を受け損失を被ることがあります。市場規模や取引量が小さい資産については流動性リスクが高まりやすくなります。

基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

その他の留意点

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受け付けが中止となる可能性、換金代金の支払いが遅延する可能性があります。

お手続きと費用

お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める1円または1口(当初元本1口=1円)の整数倍の単位とします。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して7営業日目からお支払いします。
購入・換金の申込不可日	以下の日においては購入・換金のお申込みはできません。 ①ルクセンブルグ、ジュネーブ、ロンドンもしくはニューヨークの銀行の休業日、ニューヨーク証券取引所の休業日、ロンドン証券取引所の午後休業日または12月24日 ②一部解約金の支払い等に支障を来すおそれがあるとして委託会社が定める日
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口換金には制限を設ける場合があります。
信託期間	2020年6月26日(当初設定日)から無期限とします。
繰上償還	受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合等には信託が終了(繰上償還)となる場合があります。
決算日	毎年8月15日(休業日の場合は翌営業日)とします。
収益分配	年1回の決算時に、収益分配方針に基づき分配を行います。 ※ファンドには収益分配金を受取る「一般コース」と収益分配金が税引後無手数料で再投資される「自動けいぞく投資コース」があります。ただし、販売会社によっては、どちらか一方のみのお取扱いとなる場合があります。
課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。 公募株式投資信託は税法上、NISA(少額投資非課税制度)の適用対象であり、2024年1月1日以降は一定の要件を満たした場合に限りNISAの適用対象となります。ファンドは、2024年1月1日以降のNISAの「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」の対象となる予定ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ※上記は、2023年10月末日現在のもので、税法が改正された場合等には、変更される場合があります。 配当控除、益金不算入制度の適用はありません。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用		
購入時手数料	3.3%(税抜3.0%)の手数料率を上限として、販売会社が独自に定める率を購入価額に乗じて得た額とします。(詳しくは、販売会社にてご確認ください。)	
信託財産留保額	ありません。	
投資者が信託財産で間接的に負担する費用		
運用管理費用(信託報酬)	毎日、信託財産の純資産総額に年1.1275%(税抜1.025%)の率を乗じて得た額とします。 [運用管理費用(信託報酬)の配分(税抜)]	
	委託会社	販売会社
	年率0.35%	年率0.65%
		受託会社
		年率0.025%
投資対象とする投資信託証券	純資産総額の最大年率0.66%(税抜0.6%)(上場投資信託証券を除く)(各投資先ファンドの報酬率につきましては投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。上場投資信託証券につきましては銘柄毎に異なります。上記の報酬率は今後変更となる場合があります。)	
実質的な負担	最大年率1.7875%(税抜1.625%)程度 (注)ファンドは市場環境により積極的に組入比率の見直しを行いますので、実際の投資信託証券の組入状況により変動します。	
その他の費用・手数料	毎日計上される監査費用を含む信託事務に要する諸費用(信託財産の純資産総額の年率0.055%(税抜0.05%)相当を上限とした額)ならびに組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料等および外国における資産の保管等に要する費用等(これらの費用等は運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。)は、そのつど信託財産から支払われます。投資先ファンドにおいて、信託財産に課される税金、弁護士への報酬、監査費用、有価証券等の売買に係る手数料および借入金の利息等の費用が当該投資先ファンドの信託財産から支払われることがあります。また、購入・換金時に信託財産留保金が購入価格に付加または換金価格から控除されるものがあります。	

※当該費用の合計額については、投資者の皆様が発金を保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

委託会社、その他の関係法人の概要

委託会社	ピクテ・ジャパン株式会社(ファンドの運用の指図)
受託会社	三菱UFJ信託銀行株式会社(ファンドの財産の保管および管理)
投資顧問会社	ピクテ・アセット・マネジメント・エス・エイ、ピクテ・アセット・マネジメント・リミテッド(ファンドの資産配分に関する助言)
販売会社	販売会社については下記のピクテのホームページをご照会ください。 (募集の取扱い、販売、一部解約の実行の請求受付ならびに収益分配金、償還金および一部解約代金の支払い等)

当資料をご利用にあたっての注意事項等

●当資料はピクテ・ジャパン株式会社が作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。取得の申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)等の内容を必ずご確認ください。●投資信託は、値動きのある有価証券等(外貨建資産に投資する場合は、為替変動リスクもあります。)に投資いたしますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の皆様は投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。●運用による損益は、すべて投資者の皆様には帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。

※MSCI指数は、MSCIが開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。お申込みの際は必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」等をご覧ください。

ピクテのファンドや投資環境等に関する情報やセミナーについてより詳しく知りたい方は下記へアクセスください。



ピクテのホームページ
<https://www.pictet.co.jp>



ピクテ主催の各種セミナー・イベント等
<https://www.pictet.co.jp/seminar.html>



※投資信託説明書(交付目論見書)等は販売会社にてお渡ししています。[ピクテのホームページ]の「ファンド」一覧より該当するファンドを選択し、ファンドページ中段の「販売会社一覧」タブをクリックすることでご照会いただけます。

販売会社一覧

投資信託説明書(交付目論見書)等のご請求・お申込先(2023年11月27日現在)

商号等	加入協会			
	日本証券業協会	一般社団法人 日本投資顧問業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会
あかつき証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第67号	○	○	○
池田泉州TT証券株式会社	金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第370号	○		
株式会社SBI証券(注1)	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第44号	○		○
岡三証券株式会社(注2)	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第53号	○	○	○
きらぼしライフデザイン証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第3198号	○		
静銀ティーエム証券株式会社	金融商品取引業者 東海財務局長(金商)第10号	○		
七十七証券株式会社	金融商品取引業者 東北財務局長(金商)第37号	○		
大和証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第108号	○	○	○
ひろぎん証券株式会社	金融商品取引業者 中国財務局長(金商)第20号	○		
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号	○	○	○
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第195号	○	○	○
ワイエム証券株式会社	金融商品取引業者 中国財務局長(金商)第8号	○		
株式会社愛知銀行	登録金融機関 東海財務局長(登金)第12号	○		
株式会社SBI新生銀行(委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関 関東財務局長(登金)第10号	○		○
株式会社北九州銀行	登録金融機関 福岡財務支局長(登金)第117号	○		○
株式会社きらぼし銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第53号	○		○
株式会社きらぼし銀行(委託金融商品取引業者 きらぼしライフデザイン証券株式会社)	登録金融機関 関東財務局長(登金)第53号	○		○
株式会社佐賀銀行	登録金融機関 福岡財務支局長(登金)第1号	○		○
株式会社七十七銀行	登録金融機関 東北財務局長(登金)第5号	○		○
株式会社SBI新生銀行(委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券)	登録金融機関 関東財務局長(登金)第10号	○		○
株式会社中京銀行	登録金融機関 東海財務局長(登金)第17号	○		
株式会社鳥取銀行	登録金融機関 中国財務局長(登金)第3号	○		
PayPay銀行株式会社	登録金融機関 関東財務局長(登金)第624号	○		○
株式会社北陸銀行	登録金融機関 北陸財務局長(登金)第3号	○		○
株式会社北海道銀行	登録金融機関 北海道財務局長(登金)第1号	○		○
株式会社もみじ銀行	登録金融機関 中国財務局長(登金)第12号	○		○
株式会社山口銀行	登録金融機関 中国財務局長(登金)第6号	○		○

(注1)株式会社SBI証券は、上記の他に一般社団法人日本STO協会・日本商品先物取引協会にも加入しております。

(注2)岡三証券株式会社は、上記の他に一般社団法人日本暗号資産取引業協会にも加入しております。